

第381号

2013年

10月1日

どついたニュース

全損保日動外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

原水爆禁止2013年世界大会報告号

全損保がかかげる、平和と民主主義の取りくみの一環として、本年度も8月6日の原水爆禁止世界大会の一連の行事に、日動外勤支部からも竹田副委員長と守谷西日本分会委員長、大阪地協から長田副議長が参加しました。以下、報告します。

8・6原水禁に参加して

竹田 典央

8月5日の損保平和交流集会から翌日6日の損保慰霊祭及び慰霊碑めぐり、そして原水爆禁止世界大会に一泊で参加してきました。

損保平和交流集会は被爆時よりその形を残すホテルアンデルセンのコペンハーゲンの間で日新分会広島地区協の岡崎さんの司会で始まりました。参加者は損保会社OB・OG、現役組合員などと41名で、当支部より、竹田、守谷、大阪地協から長田と計3名が参加しました。交流の前段で原爆被害者団体協議会で常任理事を務められている、女学校2年の時に被爆した矢野さんの体験を話してもらいました。戦時中は爆撃の拡大防止のために防火帯を作る作業に小学生も駆り出されており、その作業中に原爆が落とされ、先生や友達がみな亡くなられたことや矢野さんはその日、体調不良で欠席したおかげで自宅にて被爆されたことなどを話されました。とりわけつらかったのは、友達の親から「真面目に学校に行ったものが死に、なぜ休んだあなたが生きてるのか」と言われ、当時は「生きていくことがつらい」「わたしも死んでしまいたい」と罪悪感にさいなまれたということや、自宅建物が無事であったがために救護所となり、懸命に介護に当たるもほとんどの方が亡くなられていく姿を目の当たりにしたことなどをお話いただきました。私も矢野さんが「本当のことを知り、知らせることが大事」と言われていたことをきっちり胸に刻もうと思いました。そのあとの交流の場でも、本部佐藤副委員長が「全損保はこれまでも平和と民主主義に取りくんできたが、このことを機に学び、伝え、行動に移していくことが必要だ」

と話されました。

翌日は朝8時から、平和記念公園で開催される集会に参加し、原爆が投下された8時15分にはそこに集う人々全員で黙祷を捧げました。竹下広島市長は、挨拶の中で、「原爆は絶対悪である」と述べ、安倍首相にも世界各国の首脳に即時の廃絶を促すよう求めました。

全損保碑の前で行われた、原爆で亡くなられた損保に働いていた89名の霊を弔う、損保従業員犠牲者慰霊祭では、参加者全員が粛々と手を合わせ、当支部からも花束をたむけました。

その後、広島地区協の仲間より、公園にある慰霊碑の案内をしていただきました。「全損保の碑」「峠三吉詩碑」「原爆の子の像」「広島市立女学校慰霊碑」「損保協会友愛の碑」「韓国人犠牲者慰霊碑」「貞子さんの像」などをめぐり、それぞれの慰霊碑に刻まれている内容を学習し、爆心地である「島病院」で解散となりました。

午後からは世界大会広島デーに参加し、原爆が人類に与える影響についての説明や、86年たった今でも、障害に苦しむ被爆協の方からのお話を聞きました。なかでも原爆が故意、過失、自然災害など理由のいかんにかかわらず、爆発してしまった際には、人間には手に負えない代物であるとの研究発表がされたということで、本当に核兵器はすべて排除する必要があると痛感しました。この大会では映画監督のオリバー・ストーンさんと俳優のピーター・カズニックさんが講演され、「原爆が投下された背景に何があったのか」や、「真実はどうであったのか」を正確に知り、「戦争を起こさせないようにたたかうべきだ」と語られました。

はじめてこの一連の集会に参加し、被爆というものが「もう過去のこと」ではなく、「いまも苦しみは引き継がれている」ということを痛感すると同時に、忘れかけている原爆の脅威、平和の大切さをあらためて考えさせられ、機会があればぜひ皆が参加してほしいと思いました。

以上